

報告

二〇一五度大会の概況

日本思想史学会二〇一五年度大会は、十月十七日（土）・十八日（日）の両日、早稲田大学戸山キャンパスを会場として開催された。

第一日目は「思想史学の問い方―二つの日本思想史講座をふまえて―」をテーマにシンポジウムが開催された。

報告

戦後の近世思想史研究をふりかえる

（東海大学） 田尻祐一郎

二つの日本思想史講座と日本思想史の問い方

末木文美士

コメント

（駒澤大学） 高山 大毅

（日本学術振興会特別研究員） 森 新之介

澤井 啓一

シンポジウム終了後に総会が行われ、評議員より二〇一四年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認さ

れた。続いて二〇一五年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員案通り決定された。また、会長から第九回日本思想史学会奨励賞の発表と授与が行われた。受賞業績は次の作品である。

黒川伊織「一九二〇年代日本思想史と第一次国共合作」濱野靖一郎『頼山陽の思想―日本における政治学の誕生―』引き続き、大隈ガーデンハウスにて懇親会が開催された。

第二日目のパネルセッション・研究発表の発表者と発表題目は以下の通りである（研究発表の副題省略）。

〈第一会場〉

研究発表

1、徳川時代漂流記に見る朝鮮認識

（立命館大学大学院） 松本 智也

2、「人間」と「非人間」

（東北大学大学院） ポロヴニコヴァ・エレーナ

パネルセッション…幕末明治の「アメリカ」受容

(吉野作造記念館) 大川 真
(関西大学) 陶 徳民
(慶應義塾大学) 大久保健晴
特別パネルセッション…津田左右吉と早稲田大学

岡本 天晴
(早稲田大学図書館) 小林 邦久
(早稲田大学) 真辺 将之
パネルセッション…国史学とアジアと仏教文物

(佛教大学非常勤講師) 佐藤 文子
(名古屋市立大学) 吉田 一彦
(韓国・藝術綜合大学) 池 美玲
(韓国・慶熙大学) 手島 崇裕

〈第二会場〉
研究発表

3、山鹿素行関連文献考 (中国・蘭州大学) 中嶋 英介
4、澁川春海の土守神道について (広島大学非常勤講師) 川和田晶子

5、大槻平泉の「大学」解釈

(国際基督教大学大学院) 阿曾 歩

6、二宮尊徳による報徳思想の内実と現代的意義

(東京大学大学院研究生) 三竹真知子

7、時事新報社説の起草者推定

(静岡県立大学) 平山 洋
8、キリスト教社会主義と心身修養

(日本学術振興会特別研究員) 栗田 英彦
9、「第三の道」へのまなざし

(立命館大学大学院) 張 琳
10、近代日本文学者と近代日蓮主義の一側面

(日蓮正宗教学研鑽所) 長倉 信祐
パネルセッション…「大正デモクラシー」の再検討

(同志社大学非常勤講師) 平野 敬和
(日本学術振興会特別研究員) 藤村 一郎
(岐阜大学) 田澤 晴子

〈第三会場〉
研究発表

11、「国史学」における神道・仏教

(フートルダム女学院中学高等学校) 池田 智文

12、近代日本における中国戯曲研究

(関西大学大学院) 辜 承堯

13、日本「内地」におけるモンゴル語教育と植民地主義

(愛知県立大学大学院) 朝克卒力格

14、戦前・戦中期日本のアジア社会論における「アジア的なもの」
(大阪大学大学院) 周 雨霏

15、『耶穌教審判』にみる本田親徳の天帝観

16、戦後思想における内村鑑二
(国際基督教大学大学院) 並木 英子

(日本学術振興会特別研究員) 柴田真希都

17、明治日本における足尾鉾毒事件の思想像

(東京大学大学院) 商 兆琦

18、大逆事件と陽明学

(総合研究大学院大学大学院) 山村 奨

19、雑誌『道徳教育』における「国学」思想

(宇都宮大学非常勤講師) 水野 雄司

20、寛克彦の天皇観・皇族観について

(総合研究大学院大学大学院) 西田 彰一

21、一九三〇年代における帝国飛行協会の航空思想

(名古屋大学大学院) 大山 僚介

〈第四会場〉

研究発表

22、法然の「念仏」について

(学習院大学非常勤講師) 島田健太郎

23、南北朝期の学問空間

(学習院大学非常勤講師) 林 東洋

24、孟子受容史論への批判的な考察

(中国・河南大学) 邱 璐

25、浄土僧と夢

26、伊藤仁斎における「悪」の認識について
(早稲田大学日本宗教文化研究所) 鈴木 英之

(東北大学大学院) 宣 芝秀

27、浅見綱斎の「義」の再検討 (明治大学) 清水 則夫

28、本多利明の蝦夷地開発政策論

(関東学院大学非常勤講師) 宮田 純

29、江戸後期林家の位置

(岩手大学) 中村 安宏

30、会沢正志斎の国学観

(早稲田大学大学院) 蔣 建偉

31、佐久間象山における「敬」

(九州大学大学院) 韓 淑婷

32、長野義言の宇宙観

(佐賀大学) 三ツ松 誠

33、幕末と中国清末

石津 達也